

アワーミュージアム



第21号 2003年2月10日発行

「大坂口御番所村瀬家文書」を解読して

たき よし子 (友の会会員)

平成8年10月、福田憲先生の「古文書学習について」と題した講演が、板野町図書館で開催されました。これを機会に地元の古文書を読みたい。ただそれだけの思いで、翌日「板野町古文書を読む会」を発足させました。私のような初歩の者にとって、まとまった地方文書を手に入れることは容易ではありませんでしたが、案ずるより生むが易しのたとえどおり、まもなく大坂口御番所であった村瀬家文書に出会えたことは幸いでした。

藩政時代、徳島藩には阿波と淡路に77カ所の番所（関所）がありました。中でも大坂口御番所は阿波五街道の一つ讃岐街道上の国境にあって最も

重要な番所でした。正保元年（1644）に設置され、明治5年（1872）に廃止されるまで約230年間、村瀬家と久次米家の両家が、代々番所役人として勤めました。

村瀬家住宅は板野町の史跡に指定され、捕物道具の槍や袖搦みが残されています。古文書類は年代順にきちんと整理されすべて保存されているのではなく、かなり散逸してしまったのは惜しまれます。現在残っている文書も裏側を下書き用にしたもの、襖の下張りにしていたものがほとんどです。

ことに長年襖の下張りで眠っていた文書の一枚一枚を剥がす作業は、未知の資料との出会いとなり、その時代に生活していた人々の生の声を聞く思いが致しました。たとえ文書に宛名・差出人・年号の記載はなくても、文書の一点一点を線で結



大坂口御番所村瀬家住宅

ぶと星座のような型が浮かび上がり、歴史の大きな流れの中で、地元の最も身近な歴史を知るきっかけとなりました。従来自治体史にも記載されていない番所役人さんの仕事の一端を垣間見ることができます。まさに襖の下張りから江戸時代が見えてきたといえます。

たとえば旧讃岐街道は、今ではあまり考えられませんが、藩政時代は大勢のお遍路さんが阿波から讃岐へ、讃岐から阿波へと大坂越えして四国88カ所を巡拝しました。北は青森県、南は九州からと記録に残っているだけでも33府県に及び、年間約24,000人のお遍路さんが大坂峠に足跡を残してゆきました。

お遍路さんが阿波国を巡拝するためには、通行手形（切手）が必要でした。大坂口御番所では切手を発行する紙も、相当使ったと思われます。当時の紙は中折紙といって現在のB4程度の大きさの手漉き和紙でした。御用物は勿論のこと、墨や筆の事務用品も不足し、藩に度々支給してくれるよう増加願いを提出したが、なしのつづて、とうとう番所役人さんは願い書きを取り下げています。碁浦番所（鳴門市北灘町碁浦）も同様でした。佐野口番所（池田町佐野）の切手は中折紙を4つ切りにしたものが残されています。紙の大切さというより、藩の窮乏ぶりが窺え、番所役人さんの苦慮した様子を彷彿とさせてくれる資料といえます。

また讃岐街道では、香川県の三本松や引田から



九代目御番人村瀬市左衛門71才の図

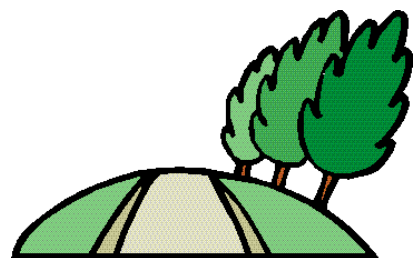
鯛・鱒・かれいなどの鮮魚が、一荷二荷と人の背で徳島市中の魚問屋さんに陸送されました。庶民の食卓をにぎわしたかどうか、興味はつきないものです。

「鷹放し見届け報告」では、殿様が鷹狩りで愛用していた大鷹を、大坂山で放し野生に戻すこともあったことが分かります。大坂口御番所役人さんの大切なお役目で、「私共立合見届候」と、間違いなく逃がしてやりましたという内容の報告書を、御鷹奉行に提供しています。当時の大坂山はうっそうと樹木が繁り、野鳥の宝庫だったと思われます。

以上はほんの一部にすぎませんが、そうした資料を読んできた成果をまとめ、『大坂口御番所村瀬家文書』として、平成14年9月に出版しました（B5変型判、362頁、3,000円）。本書の構成は、「往來手形」、「大坂口御番所実記」、「商品送り状」、「手紙・俳句・その他」の4章に分け、巻末に「村瀬家文書の語る近世」として、若干の私見を述べさせて頂きました。ぜひ一度手にとって、豊かな歴史の世界を楽しんでみていただければ幸いです。



滝よし子編著『大坂口御番所村瀬家文書』



徳島県のフクジュソウについて

おがわ まこと
小川 誠 (博物館学芸員・植物担当)

今頃の季節になると、木頭村のフクジュソウの開花の様子が新聞やテレビで紹介されます。フクジュソウはキンポウゲ科の多年草で、その花は黄色で大きく美しいので人目を引きまします。また、その名は「福寿草」の意味で、めでたい花として正月の寄せ植えにも使われます。また、薬用に用いられる場合もあるようです。山野草として人気が高い植物なので、栽培するために採取されたり、森林の伐採などで生育地が奪われたりして、数が少なくなっており、環境省や徳島県レッドデータブックで絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種)に指定されている絶滅危惧種です。

Nishikawa & Ito (2001) は、高知県大豊町を基準産地とし、シコクフクジュソウ (*Adonis shikokuensis* Nishikawa et Ko. Ito) を新種として発表しました。これで、日本のフクジュソウのなかま(フクジュソウ属)はキタミフクジュソウ (*A. amurensis* Regel et Radde)、フクジュソウ (*A. ramosa* Franch.)、ミチノクフクジュソウ (*A. multiflora* Nishikawa et Ko. Ito)、シコクフクジュソウの4種に分けられました。Nishikawa & Ito (2001) は、この4種の特徴を次のようにあげています。フクジュソウは染色体数が $2n=32$ で、他の3種は $2n=16$ です。キタミフクジュソウは托葉がありませんが、他の3種にはあります。ミチノクフクジュソウは萼が花弁の長さの $1/2 \sim 1/3$ であるのに対して、シコクフクジュソウとフクジュソウの萼は花弁と同じ長さかやや短いとされています。染色体数を調べればシコクフクジュソウとフクジュソウは区別できますが、外部形態ではよく似ているので区別が付きにくく、シコクフクジュソウは今までフクジュソウとして扱われてきました。見分けるポイントとしては、葉の裏にわずかに毛があり、花托にも毛があるものがフクジュソウで、

シコクフクジュソウにはそれらに毛が無いとされています。

徳島県のフクジュソウ属は、阿部(1990)ではフクジュソウ1種だけとされています。しかし、Nishikawa & Ito (2001)では、神山町と剣山のものはシコクフクジュソウだとされています。県内には他にも、フクジュソウとされている産地がありますが、それらについては詳しく検討されたことがありませんので、見直してみる必要があります。もし、フクジュソウについてご存じでしたら教えてください。

私たちの周りにある植物について、すべてがわかっているわけではありません。フクジュソウのように良く知られている植物でも、新種が見つかることがあります。ある植物をよく観察すると何か他とは違った感じがすることがありますが、それを詳しく調べると新たな発見があるかもしれません。もう一度よく周りの植物を見てみましょう。そして、他と違った特徴を持った植物があったら教えてください。

【引用文献】

阿部近一 1990. 徳島県植物誌. 教育出版センター.
Nishikawa T. & K. Ito 2001. A new species of *Adonis* (Ranunculaceae) from Shikoku, Western Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Ser. B, 27(2,3):79-83.



木頭村のフクジュソウ属 (田中徹氏写真提供)

博物館紹介 20



徳島県立文学書道館

たけうち のりこ
竹内 紀子 (友の会会員)

2002年10月26日に開館した徳島県立文学書道館の愛称は「言の葉ミュージアム」。徳島ゆかりの「文学」と「書道」の作品や資料を収集・展示しています。徳島中学校東隣に位置し、徳島駅からポッポ街を抜けて北側へ徒歩15分、館の北側に駐車場があります。

以下では、職員の立場から、このミュージアムをご紹介します。

常設展示室は3階に4部屋あります。まず、瀬戸内寂聴記念室は、作家生活50年を迎えた瀬戸内寂聴の人生をたどりながら作品を紹介する展示室。原稿、初版本、書簡、文学賞の賞状などを展示し、寂聴出演映像を見るコーナーもあります。また初版本等309冊の壁一面の展示は来館者の目を奪っています。奥に京都嵯峨野の寂庵をイメージした書斎を造り、その前には四季おりおりの花が咲く日本庭園が広がっています。

書道美術常設展示室は近世第一の書家で幕末の三筆にも数えられる貫名松翁 明治時代を代表する書聖中林梧竹 昭和の代表的な書家で独自の書風を確立した小坂奇石の各個別展示と 徳島ゆかりの書家を紹介する「書と徳島」のコーナーで構成されています。近世からの歴史に耐えた阿波ゆかりの名筆を展示替えを行いながら披露していきます。

文学常設展示室はわが国のSF作家の先駆者で



徳島県立文学書道館の外観



展示室のようす

ある海野十三^{うんのじゅうざ}、ハンセン病とたたかいながら川端康成の支えを受けて「いのちの初夜」を残した北條民雄、「青鞥」・「女人芸術」で活躍し、晩年は「生田源氏の会」を主宰した生田花世^{いくたはなよ}など徳島出身の作家28人の作品や年譜、阿波文学図譜を展示しています。

また収蔵展示室には、瀬戸内寂聴寄贈の日本近代女性史の貴重な研究資料や書籍を保管しています。申込みをしていただけたら閲覧できます。

1階には6500冊の本を配架した図書室があり、AVコーナー、収蔵資料検索コーナーもあります。2階の実習室、講座室は貸室も行っており、生涯学習・文化活動にご利用いただけます。1階特別展示室・ギャラリーでは文学・書道の特別展を年6回程度行っていて、館主催の講座も多数開設しています。

時を超えて輝き続ける珠玉の作品群との出会いが、見る人の心をさらに豊かにしてくれることと思います。ぜひ一度足をお運びください。

徳島県立文学書道館

開館時間	午前9時30分～午後5時
入館料	常設展 大人 300円
	高校・大学生 200円
	小・中学生 100円
	(高齢者[65歳以上]・障害者は半額)
	(小・中・高は休日は無料)
	(20名以上の団体は2割引)
休館日	毎週月曜日(休日の場合はその翌日) 年末年始(12月28日～1月4日)
所在地	徳島市中前川町2丁目22-1 TEL 088-625-7485

友の会行事報告



第8回 園瀬川探検参加記

ふくなり いくこ
福成 育子 (友の会会員)

私は、園瀬川に架かる津田橋の少し上流，昭和町で生まれました。小学校低学年の頃まで、^{しじょう}技条架（海水を上から流し蒸発させて濃くする装置）が残っていて、^{えんでん}塩田が細々と営まれていました。台風の時には、ドーンと大きな音がして、園瀬川（大川と呼んでいました）の土手に高波があたり、波しぶきが家から見えて恐かったものです。そうして通っていた昭和小学校の校歌は「園瀬の川にのぼる日の～」というものでしたが、今は変わっているのしょうね。

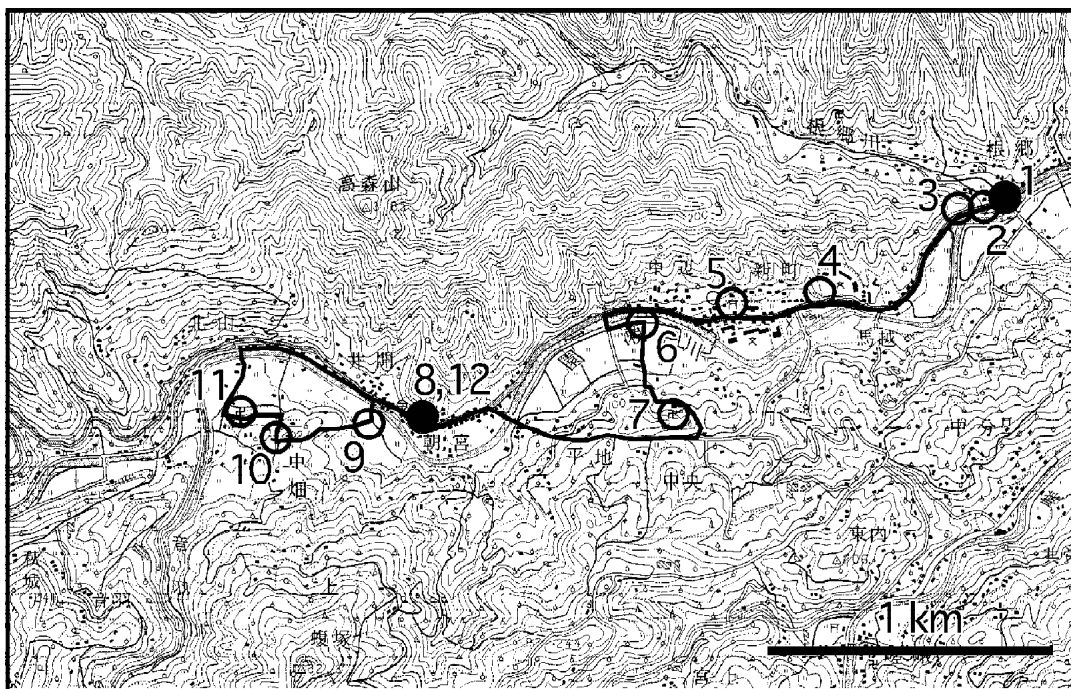
そういう私的な思い入れで、園瀬川探検には参加したいなと思っていました。第7回から参加させてもらって、今回で2回目ですが、参加者の方々は、皆さん知識が豊富なので、お話を伺うの



地神塔の観察

が楽しみです。

今回は、根郷から園瀬川本流に添って、^{ちようがんじ}長願寺まで歩きました。曇りがちで少し寒かったのですが、国道の両側の小高い所に点在する、^{じじん}地神さんや祠を調査しながら、ゆっくり歩きました。歩き始めて少し行くと、川が淵になっていて岩がかぶさった所に、^{こい}大きな鯉が悠然と泳いでいて驚きました。そこから、佐那河内中学校前、小学校前を過ぎて、JA 徳島佐那河内支所でお手洗いを拝借



第8回ルートマップ (国土地理院1/25000地形図「阿波三溪」使用)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 根郷谷川合流点 (出発点) | 7. 青連寺 |
| 2. 地神 | 8, 12. 朝宮神社 (終点) |
| 3. 名称不明神社 (剣山大権現の札あり) | 9. 地神 (天照太神が東向き) |
| 4. 地神 | 10. 供養塔 |
| 5. 妙見神社 | 11. 長願寺 |
| 6. 地神 | |

(2002.10.27実施: 5.3 km)

しました。JAでは細ねぎの出荷作業中で、ハウス栽培との事。細くてきれいな青ねぎでした。

次に、妙見神社から村役場、役場の向かいのシャクナゲ市（日曜市）へと行きましたが、市はもう終わっていたので、また妙見神社まで帰って、お弁当を食べました。ここには、イチヨウ、ムクの他に大きなカゴノキがありました。剥がれ落ちた木肌が鹿の子模様のように、この名前がついたそうで、ジクソーパズルの一片の様に、パチッと小気味よく剥がれます。

昼食後、^{しょうれんじ}青蓮寺、^{あさみや}朝宮神社を経て、長願寺まで歩きました。帰りは朝宮神社から車に乗せてもらって文化の森まで帰りました。

午後は山道が多く少し疲れましたが、同行の4才という、おさげの女の子の元気さに、励まされて歩きました。今回の行程は6キロぐらいだったそうです。



カゴノキの観察



朝宮神社にて

来たれ！ ボランティア

今まで県立博物館では、ボランティアは導入されていませんでした。その必要性は感じつつも県民全体に募集するには、広報の仕方や希望者数による対応などいろいろな課題が考えられたからです。そこで、まず今年度は、友の会会員の方に限定して普及行事のボランティアをお願いしました。実際には「こどもの日フェスティバル」、「辻町を歩こう」、「雑草で年賀状をつくろう」の3行事で会員の方に呼びかけ、ボランティアを募集しました。行事を行う学芸員自身もボランティアの方にどの程度の支援をお願いすればよいのかわからないことも多く、まだまだ手探りの状態です。ただ、どの行事でもボランティアの方々の終始変わらぬ笑顔がとても印象的でした。

行事参加者の学びがスムーズになり、ボランティアの方も満足できる。そのようなボランティア活動のあり方を今後とも探っていきたいと考えております。来年度もいくつかの行事で、会員の方にボランティアをお願いしますので、ぜひご協力ください。

（事務局）



年賀状づくりの準備

ボランティアに参加して

さかもと まさよ
坂本 昌代（友の会会員）

以前、県立博物館で受けさせていただいた「博物館実習」で、博物館のいろいろな仕事について学びました。その中でも特に印象深かったのは、年末の「年賀状づくり」の下準備として、博物館の裏山に登り、材料のイヌビワやコウゾの木の皮を採集しておくという体験でした。その時、学芸員の小川さんから、年末になったら「年賀状づくり」のボランティアを募集するという話を聞いてなんとなく参加できたら良いなあと思っていました。幸い私は博物館友の会の会員になっているので、毎月送られてくる友の会の印刷物により情報を得て「年賀状づくり」のボランティアの一人に加わることが出来ました。申し込みの日から少し時間があつたので、リハーサルにも参加できてボランティア同士も親しくなれました。

当日、ドキドキしながら子供達を待っていましたが、お父さん、お母さんが一緒に参加してくれている安心感からか、のびのび振る舞ってくれ、ともに大変楽しい時間を過ごすことが出来ました。皆、自然の素材から年賀状をつくったのは、たぶん初めての経験だったと思います。どの子ども目をきらきら輝かせて一生懸命お父さん、お母さんと一緒に頑張ってMYオリジナル年賀状をつくっていました。「これは小さな事だけど、絶対心のどこかで覚えているんだな」と、また「ここに自分が存在できて良かったな」と心から思いました。私がボランティアをしたことは、とてもささやかな体験でしたが、子供達の笑顔を見ているとこの機会を与えてもらって本当に良かったと感謝しています。また、機会があればいろいろな行事にも参加したいと思っていますので、よろしくをお願いします。

友の会行事報告



冬の研修会 吉備路の旅

今年度の冬の研修会は、やすらぎの吉備路の自然を堪能しながら、昔人の残した遺産を探訪する旅と銘打ち、会員25名に加え、事務局員3名が同行して実施しました。ごんまりとした研修と親睦の機会となりました。歩いて見学する場所も多く、充実した2日間の旅でした。

ここでは、研修に参加した8名の会員の声を紹介します。

岡山県には何度も行ったことがありますが、今回の神社、風土記の丘、寺、高梁や矢掛の町並みを訪れるのは初めてでした。パンフレットも充実していて、得るものの多かった旅でした。

とても楽しい旅行でした。3か所のボランティア制度にも興味を持ちました。徳島も脇町以外にあるのでしょうか。

機会がなければ行かなかただろうなと思うような場所だった。県外のボランティアさんの元気さに驚かされました。

こうもり塚を見学させて頂き、規模の大きさに感動しました。現地の方々の説明でより詳細なことが分かり、勉強になりました。

各見学場所でボランティアガイドさんに説明していただき、個人では経験出来ない研修でし



備中国分寺にて

た。国分寺の菜の花と五重の塔の景色は印象に残りました。

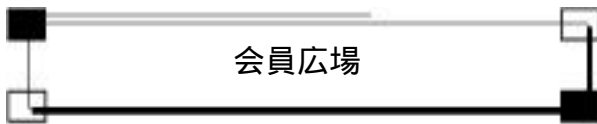
インターネットで予習をしていたので、見学地がよくわかりまだまだ多くの場所を見学したかったのですが、時間がいくらあっても足りないくらいでした。

初めての研修旅行でしたが、楽しく有意義な時間でした。研修の資料も参考になりました。

一番印象に残ったのはよく保存されていた高梁市の町並みです。やさしいガイドさんでよかったです。



高梁市の町並み見学



会員広場

今回は、博物館を利用して研究に取り組んだ会員の声をお寄せいただきました。皆さんも、知りたいこと、学びたいことがあるとき、お気軽に博物館へおいでください。

私は、薬用植物の「花粉」の研究を夏休みの宿題にすることにし、学芸員さんをお願いして博物館で花粉を観察させてもらうことにしました。

さすがに学校にある顕微鏡とは違って見やすく、

特にノコギリソウの花粉がギザギザのチェーンソーのようで、花粉までノコギリ型をしているなんて、驚きました。名前の由来は葉ではなく、ここから来ていると思うほどでした。

今回の研究で、科学展の金賞をとることが出来ました。(小5 篠原 ひろみ)

私は、家族と化石を取りに勝浦川の河原に行きました。そこで三角型の貝の化石を見つけました。「これは何という貝の化石だろう?」と疑問に思い、文化の森の博物館に行ってみました。化石にくわしい学芸員さんに見てもらおうと、「プテロトリゴニア」という貝でした。私は、名前が分かって、喜びでいっぱいになりました。

このこともあって、ほかの化石にチャレンジしてみたい気持ちが強まりました。これからいろいろな化石を取ってみたいと思います。

(小5 櫻庭 優)



化石の同定

《事務局からのお知らせ》

平成15年度の会員を募集しています。皆様にはぜひご継続くださいますようお願いいたします。また、会員の輪がさらに広がりますよう、ご協力いただければ幸いです。

第21号

2003年2月10日 発行：徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197

No.21

徳島県立博物館友の会会報

アフォーミュージアム

February
2003
Tokushima
Prefectural
Museum

